

## 日常生活を生かした国語

国語 第4学年

能登町立神野小学校・教諭

### 1 事例の概要

本学級は平成14年度に設置され、児童数は1名である。丁寧な指導が行き届き、生活習慣、学習態度がきちんと身につけていた。この児童は、日頃からあまり口数の多い方ではなかったが月曜日の全校朝会では、日記を見ながら大きな声で読んだり、時にはノートが無くても発表したりすることができた。しかし、話す内容が少人数にしか伝わらないことがあり残念に感じた。

本年4月、学校長の意向を受け、この児童を全職員で育てることに決め、日常生活を生かした取り組みを実践することとした。

そこで、言葉の使い方を学び、書く力を育てるために、身近な家族を題材にして、第一段階は主語と述語の文カードに助詞「が」「は」を入れて整った文を作る授業、第二段階は、前時までに作った文を使ってこの児童の家族を紹介する授業等に取り組むことにした。

これは、少しでもこの児童に、話す内容や自分自身の気持ちが相手に伝わることの楽しさを感じてもらえることをねらいにしたものである。

また、いろいろな教材文を調べるなかで、この児童にとって大好きな家族に結び付けることができる、同成社『うちのこと』の教材文を見つけた。教材文のなかの「いもうと」「にいさん」「つとめ」「しんせき」「高校」などのことばの意味や使い方をつまづきが予想されたので、具体的な例で丁寧に扱うとともに、主語が明示されていない文の扱いにも留意することにした。

#### A-1 学校研究

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

「は」「に」などの助詞を適切に使った文章を書いたり、話したりすることができる。

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 指導法の工夫

教材文の学習を自分の家族の紹介に生かすことができるように、挿絵を拡大し、家族の顔を一人ずつ切り離し、一人ずつ貼りながら家族関係をことばでとらえた。「お父さんは…つとめています。」などの文を学習の初めに貼って、課題を明確にするとともに、本時の学習がより興味深くなるために、この児童の家族全員の写真を準備することにした。

##### ② 活動の工夫

助詞をいくらかでも意識させるために、文を主語と述語に分け、短冊型に切り取った文字カードに書いて、間に助詞を補う学習を一貫して行うことにした。本時の学習にもこれまで以上に「は」「に」の助詞を使った学習の応用編として、より丁寧に扱ってみた。

##### ③ 評価の工夫

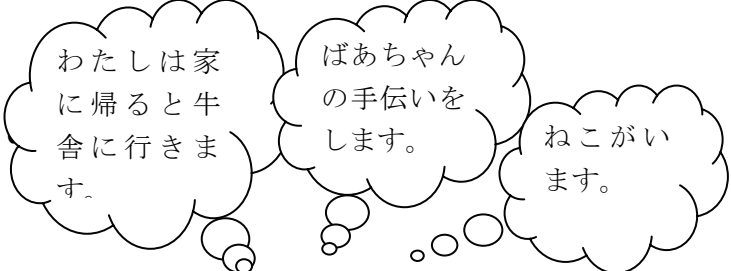
話すことと、つぶやき等を文字にして、自己表現ができたという達成感、自信、喜びをもたせることができたか。〈行動観察・短冊カード（教師）〉

助詞の使い方を考えて家族を紹介できたか。〈発言・短冊カード（児童）〉

#### B-1 単元計画と評価計画

#### B-2 指導法の工夫

### 3 指導の実際

学習活動	教師の働きかけと児童の反応	支援☆評価◆
<p>3 家族の紹介をする。</p> <p>4 わたしのことを紹介しよう。</p>	<p>〈みんなに、かぞくのしょうかいをしましょう。〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>お父さんはコスモスに行つて、おつとめをしています。お母さんはガソリンスタンドに行つて、おつとめをしています。Mおねえさんは高校に行きます。Aおねえさんは中学校にいきます。ばあちゃんは家にいます。</p> </div> <p>〈わたしのこともおしえてね。〉</p> 	<p>☆紹介の練習の時間をとり、相談にのることで、自信をもって紹介しやすくする。</p> <p>◆黒板を見ながら、一人ずつ紹介をすることができたか。</p> <p>(発言) (短冊カード)</p>

#### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 指導法の工夫

家族の写真を使うことで、興味を持って学習に集中できた。特に、本人の写真が、愛猫を抱いた写真であり、猫についていろいろ質問や共感をしてもらい嬉しさが増した。あとで、全校朝会のスピーチでも、うちの猫の紹介ができた。

##### ② 活動の工夫

助詞を意識させるために、文を主語と述語に分けて短冊文字カードに書いて、間に助詞を補って家族を紹介する文を作成する学習をした。家族を紹介する文作りは初めてだったが、教材文も同じ方法で学習したので応用して作ることができた。日記を自分一人の力で書くことも見られるようになった。誤字や脱字があるが、脱字は長音、拗音、「ん」に多く、誤字は「っ」、拗音に多い。傾向を理解して文を読むと言いたいことが伝わった。

##### ③ 評価の工夫

参観してくれた先生方に家族を紹介する前に、黒板の掲示を見ながら担任と練習時間をとることで、助詞を入れて家族を紹介することができた。次々に入れ替わって参観してくれた先生に何度も紹介することができた。まとまった長い話に助詞を入れることを意識して話すことができた。

#### (2) 課題

- ① 「話すこと」「話すことが伝わる楽しさ」「話がつながる喜び」を一番大切にしているが、今後、少しずつ文字を書く時間を増やし、助詞が正しく使えるようにしたい。
- ② 参観の先生に聞かれていることに、どのように答えればいいのか自分で判断できない時があったため、語彙を増やしたり色々な人や友だちと話す機会を増やしたりしていきたい。
- ③ 文字を書く際に、やや誤字が見られるため、長音、拗音、「ん」「っ」の指導法を工夫していきたい。

#### D-1 その後